

# 策定プロセス訪問調査事例

佐賀県東与賀町

# 佐賀県東与賀町の母子保健計画策定

報告（佐賀県東与賀町：直塚朝香／大分県玖珠町・日隈桂子）

## 〔Ⅰ〕事例の概要

人口：7,160人

地理的条件：佐賀市に隣接

社会資源：農・漁業主体であったが第1次産業人口は年々減少している。

町の組織体制：保健と福祉は同じ課に配置されており、連携が取りやすい。

住民組織の成熟度：近年、宅地化がすすみ若い核家族世帯の転入で人口がやや増加している。このため以前からの住民と転入者とは自治意識にずれが見受けられる。

## 〔Ⅱ〕計画策定の準備

\*保健所での母子保健研究会に担当の課長・係長・保健婦が参加し、必要性について研修を受けたことで意思統一できた。

\*保健所より情報として、他の保健所管内研修会でブレイクスルー思考による保健計画の研修があることを聞き、係長と保健婦が参加し（藤内修二氏）目的設定型の導入で策定しようと意思統一した。

\*作業部会・策定委員会のメンバー・作業の流れ・取り入れ

①合意形成のキーマン及び手法

課長は、首長の了解を得て課長会議において概要を説明し協力依頼す。

係長は、保健婦が時間外でも取り組めるよう事業調整した。

保健婦は、他の情報から何が最も効果的である（必要性・手法等）のか説明し、関係者の理解を得るよう働きかけた。

②策定体制＜母子保健推進協議会・母子保健計画作業部会＞

構成：住民組織＝区長会・婦人会・民生児童委員・母子

保健推進員・食生活改善推進員

学校組織＝養護教諭・幼稚園教諭・学校PTA・

関係機関＝佐賀保健所（所長・保健婦係長・栄養士）議会議員

行政＝町長部局（町長・企画・福祉・保健衛生）

教育委員会部局（教育長・学校教育・社会教育）

運営：母子保健推進協議会……会議2回

母子保健計画作業部会…会議3回

◆その他、計画策定のための環境づくり

予算：委員会の謝金・会議費・印刷製本費、

人的体制：職員の時間外手当支給

時間の確保：担当者（保健婦）が専念できるよう事業分担をした

◆苦労した点

\*ブレイクスルー思考の研修が不十分であったため、課題や事業に生かすことが難しかった。

\*各メンバーとの日程調整が大変だった。

## 〔Ⅲ〕地域の実態・住民ニーズの把握

①地域の実態・住民のニーズ把握の視点の整理と共有化

キーマン：住民のニーズ調査は、保健婦が中心に実施。

②具体的な手法

<子育て環境に関するアンケート>

保健婦が、調査票を作成し妊婦・乳幼児に対して窓口や事業実施時に聞き取り調査をおこなった。

<情報及び問題点・課題の提供依頼>

保健婦が、庁舎内と幼稚園・小中学校に現状・問題点・課題についての情報や意見の提供を依頼した。

\*郡内保健環境衛生推進連絡会議にて、係長・保健婦が先進地（大分県玖珠町）を視察し、計画書の概要を学んだ。

#### 〔IV〕計画（施策）化

- ① 具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成  
保健婦が計画原案を作成。  
課長・係長・保健婦で原案を検討。  
策定委員会にて原案の修正。
- ② 内容（具体の目標、数値目標、評価指標）  
策定委員会において、具体的目標・数値等について意見がだされた。

#### 〔V〕計画の具体化

- < 9年度予算への反映 >  
9年度事業として、両親学級・思春期体験学習・手づくりおやつの展示・試食等、計画に基づき実施。
- < 計画の進行管理・組織体制 >  
母子保健推進協議会を開催。9年度事業の計画と進捗状況  
問題点等について説明し、意見を求める。
- < 住民・関係機関への周知等 >  
計画のダイジェスト版を作成し、全世帯に配布した。

#### 〔VI〕策定による変化

- \* 図書館事業との共催・学校事業への理解と協力が得られやすくななど、関係機関との連携との連携がとりやすくなった。
- \* 今回、作業部会のメンバーに加わってもらうことができた部署（福祉・保健衛生・学校教育・社会教育）については、理解と協力を得ることができた。

#### 〔VII〕全体を通じた事例のまとめ（キーワードズ）

- \* 日常の連携（町と保健所）  
これまでに保健所が定例会議等を実施し、管内との情報や意見交換できる体制ができていた。
- \* 保健所による情報提供と技術研修会開催  
保健所は、管内市町村を対象に母子保健計画策定の必要性についての説明指導を行い、市町村はお互いに策定の振興状況を確認しながらすすめることができた。また、県下での計画策定における研修会についての情報を提供し、市町村と共に研修を受けるなどして、協力支援体制をとった。
- \* 住民の参画  
策定委員に小中学校PTA代表・子育て中の母親代表を作業メンバーに加えブレイクスルー思考によりあるべき理想の姿とそれを達成させるための条件について住民としての意見を多く反映した。
- \* 先進地からの情報収集  
具体的な手法及び体制づくりのため、すでに策定し事業推進中の先進地（大分県玖珠町）に、関係職員で視察研修を行い関係者の意思統一を図った。
- \* 健康づくりは町の第一政策  
これまでも健康な町づくりへの取り組みがされており、町の健康づくり予算はいつも優先され、策定の必要性を理解したあと、年度途中にもかかわらず九月補正で認められ、担当課長・係長・保健婦の連携もよく取れていて、それぞれが『役割を分担』して、それぞれの支援体制づくりや作業進行を図った。
- \* 多角的な委員構成  
他の部署からの委員選出により、いろいろな情報収集と意見交換ができ、策定終了と共に事業進行へ移行しやすい体制をつくっていった。
- \* 担当係長と保健婦の『熱意』  
すべての会議における事前準備と事後のまとめ、そして、実際の計画書づくり（アンケート分析・聞き取り調査・まとめ・文構成・年次計画等）を、短期間で実施できたのは、時代を担う大切な子どもの育成が大切であり、母子保健事業における町の指針をつくらねばと思った担当係長と保健婦の『熱意』によるところが大きい。

母子保健計画策定プロセスに関する調査票

市町村 (佐賀県・東与賀町)

記載担当者名 (佐賀県東与賀町：直塚朝香／大分県玖珠町・日隈桂子) NO1

	市 町 村		保健所の関与
	市 町 村 行 政 内 部 の 作 業	住 民 参 加	
(I) 事例の概要 ◆ 事例検討にあたって理解しておくべき背景	人口：7,160人 地理的条件：佐賀市に隣接しており、市内への通勤が多い。 社会資源：農・漁業主体であったが第1次産業人口は年々減少している。 町の組織体制：保健と福祉は同じ課に配置されており、連携が取りやすい。 住民組織の成熟度：近年、宅地化がすすみ若い核家族世帯の転入で人口がやや増加している。このため以前からの住民と転入者とは自治意識にずれが見受けられる。		＊ 管轄が1市7町であり支援しやすい体制であった。
(II) 計画策定の準備 ◆ 計画策定の目的・手法等の合意形成	＊ 保健所での母子保健研究会に担当の課長・係長・保健婦が参加し、計画策定の必要性について研修を受けたことで意思統一できた。 ＊ 保健所より情報として、他の保健所管内研修会でブレイクスルー思考による保健計画の研修（講師：藤内修二氏）があることを聞き、担当係長と保健婦が参加し、目的設定の導入で策定しようと意思統一した。 ①合意形成のキーマン及び手法 <課長>は、首長の了解を得て課長会議において概要を説明し、協力依頼す。 <係長>は、保健婦が時間外でも取り組めるよう事業調整した。 <保健婦>は、他の情報から何が最も効果的であるのか説明し（必要性・手法等について）、関係者の理解を得るよう働きかけた。		＊ 管内で母子保健計画の必要性を理解してもらったために母子保健研究会の開催 ＊ モデル市町村の母子保健計画を提示した。 ＊ 作業部会・策定委員会のメンバー・作業の流れ・取り入れる内容等について情報交換・助言を行なった。 ＊ 他管内の母子保健計画についての研修会の情報を提供した。

<p>◆その他、計画策定のための環境づくり</p>	<p>②策定体制・構成・運営 (母子保健推進協議会&amp;母子保健計画作業部会) 住民組織=区長会・婦人会・民生児童委員・母子保健推進員・食生活改善推進員 学校組織=養護教諭・幼稚園教諭・学校PTA・ 関係機関=佐賀保健所(所長・保健婦係長・栄養士) 町議会議員 行政=町長部局(町長・企画・福祉・保健衛生) 教育委員会部局(教育長・学校教育・社会教育)</p> <p>*母子保健推進協議会……会議2回 *母子保健計画作業部会……会議3回</p> <p>③予算：委員会の謝金・会議費・印刷製本費、 ④人的体制：職員の時間外手当で支給 ④時間の確保：担当者(保健婦)が専念できるよう事業分担当した。</p> <p>&lt;苦労した点&gt; *ブレイクスルー思考の研修が不十分であったため、課題設定や具体的な事業計画設定が難しかった。 *各メンバーとの日程調整が大変だった。</p>	<p>*ブレイクスルー思考により、あるべき理想の姿と、それを達成させるための条件について一住民としての意見を幅広く反映しました。</p>	<p>*母子保健統計等についての情報提供 *定期的に研究会を開催し、各市町村の進捗状況の把握と情報交換・助言をおこなうようになった。</p>
<p>〔Ⅲ〕 地域の実態・住民ニーズの把握</p>	<p>①地域の実態・住民のニーズ把握の視点の整理と共有化 マン：住民のニーズ調査は、保健婦が中心に実施。</p> <p>②具体的な手法 &lt;子育て環境に関するアンケート&gt; 保健婦が、調査票を作成し妊婦・乳幼児に対して窓口や事業実施時に聞き取り調査をおこなった。</p>	<p>*母子保健統計等についての情報提供 *定期的に研究会を開催し、各市町村の進捗状況の把握と情報交換・助言をおこなうようになった。</p>	<p>*母子保健統計等についての情報提供 *定期的に研究会を開催し、各市町村の進捗状況の把握と情報交換・助言をおこなうようになった。</p>

	<p>&lt;情報及び問題点・課題の提供依頼&gt; 保健婦が、庁舎内と幼稚園・小中学校に現状・問題点課題についての情報や意見の提供を依頼した。</p> <p>* 郡内保健環境衛生推進連絡会議にて、先進地（大分県玖珠町）を視察し（係長・保健婦）、計画書の概要を学んだ。</p>		
<p>〔IV〕 計画（施策）化</p>	<p>① 具体の対応方策に関する検討協議と関係者の合意形成 * 保健婦が計画原案を作成。 * 課長・係長・保健婦で原案を検討。 * 策定委員会にて原案の修正。</p> <p>② 内容（具体の目標、数値目標、評価指標） * 策定委員会において、具体的目標・数値等について意見がだされた。</p>	<p>* 作業部会の中で「この先も計画策定にかかわっていききたい」という意見がだされた。</p>	
<p>〔V〕 計画の具体化</p>	<p>&lt;9年度予算への反映&gt; 9年度事業として、両親学級・思春期体験学習・手づくりおやつ等の展示・試食等、計画に基づき実施。</p> <p>&lt;計画の進行管理・組織体制&gt; 母子保健推進協議会を開催。9年度事業の計画と進捗状況・問題点等について説明し、意見を求める。</p> <p>&lt;住民・関係機関への周知等&gt; 計画のダイジェスト版を作成し、全世帯に配布した。</p>	<p>* 母子保健推進員・食改健康生活推進員の協力を得て、両親学級・親子生活習慣病予防学習を実施した。</p> <p>* 自主育児グループとの連携をふかめていく。</p> <p>* 思春期体験学習に参加した小学生が赤ちゃんや子育てに関心を持つようになっている。</p>	<p>* 母子保健推進協議会に母子保健係長・企画調整係保健婦が出席し、今後の事業実施に向けて助言をした。</p> <p>* 町保健婦への技術援助。</p>

<p>(VI) 策定による変化</p>	<p>*図書館事業との共催、学校事業への理解と協力が得られやすくなるなど、関係機関との連携がとりやすくなった。  *今回、作業部会のメンバーに加わってもらったことができた部所（福祉・保健衛生・学校教育・社会教育）については、理解と協力を得ることができた。</p>
<p>(VII) 全体を通じた事例のまとめ（キーワーズ）</p>	<p>* 日常の連携（町と保健所）  これまでに保健所が定例会議等を実施し、管内との情報や意見交換できる体制ができていた。</p> <p>* 保健所による情報提供と技術研修会開催  保健所は、管内市町村を対象に母子保健計画策定の必要性についての説明指導を行ない、市町村は、お互いに策定の進行状況を確認しながらすすめることができた。また、県下での計画策定における研修会についての情報を提供し、市町村と共に、研修を受けるなどして、協力支援体制をとった。</p> <p>* 先進地からの情報収集  具体的な手法及び体制づくりのため、すでに策定し事業推進中の先進地（大分県玖珠町）に、関係職員で視察研修を行ない関係者の意思統一を図った。</p> <p>* 健康づくりは町の第一政策  これまでも健康な町づくりへの取組みがされており、町の健康づくり予算はいつも優先され、策定の必要性を理解したあと、年度途中にも関わらず九月補正で認められ、担当課長・係長・保健婦の連携もよく取れていて、それぞれが、「役割を分担」して、それぞれの支援体制づくりや作業進行を図った。</p> <p>* 多角的な委員構成  他の部署からの委員選出により、いろいろな情報収集と意見交換ができ、策定終了と共に事業推進へ移行しやすい状況をつくっていった。</p> <p>* 担当係長と保健婦の『熱意』  すべての会議における事前準備と事後のまとめ、そして、実際の計画書づくり（アンケート分析・聞き取り調査・まとめ・文構成・年次計画等）を、短期間で実施できたのは、時代を担う大切な子どもへの育成が大切であり、母子保健事業における町の指針をつくらねばと思っただ担当係長と保健婦の『熱意』によるところが大きい。</p>